



メモをしながら子育てのコツを学ぶ参加者

ワクワク講演会 子どもを伸ばすコツを伝授

慈光こども園(藤岡洋子園長)のワクワク講演会が2月6日に同園で開かれ、保護者や保育士など40人が子どもを伸ばすためのコツを学んでいました。

藤岡園長は「元気の出る内容で、とても楽しみにしている。今日の話を通じて子どもの未来に役立ててほしい」とあいさつ。国内外で2000カ所以上の幼稚園・保育園を回る、幼児活動研究会、会長の八田哲夫さんが講演しました。

さまざまな幼児教育の現場や自身の海外での経験に目を向けて「世の中すべてが挑戦。親にとって余計なことが子にとっての挑戦」「親の輝いている姿を子どもに見せることが最高の子育て」などと、子育てのコツを伝授していました。

湯前保育園で人権教室 譲り合いで仲間を大切に

人権擁護委員による人権教室が1月29日に湯前保育園(東理絵園長)で開かれ、全園児88人が紙芝居や映像を鑑賞して、譲り合いや思いやりの大切さを学びました。

園児に人権の大切さを伝えるために毎年開かれ、湯前町、多良木町から3人の委員が来園。本町からは山浦たか子委員(64=下村)、金山充委員(67=下村)が出席しました。

紙芝居「こぶたのけんか」では、一本道で譲り合わず、ぶつかって川に落ちたブタから、譲り合いの大切さを学び、その後、ねずみと猫を題材にしたDVDを視聴。委員から園児に人権イメージキャラクター「人KENまもる君・あゆみちゃん」のキーホルダーがプレゼントされました。



相手の気持ちを考え、譲り合いの大切さを学んだ園児



1 郷土料理のおもてなしで心と体を温めた 2 各名所で足を止め、ていねいにガイドをする観光案内人 3 ガイドに説明を受けながら自然を散策 4 記念写真を撮るなど、ツアーを楽しむ参加者

早春の湯前 郷あるきツアー 心も体もほっこり

ゆのまえ観光案内人協会(有馬鉄郎会長)のガイドツアー「早春の湯前 郷あるき」が2月17日にふれあい交流センター「湯〜とびあ」を発着点に町内一帯で開かれ、参加者16人が町内の名所を約3時間かけて巡り、おもてなしを楽しんでいました。

湯前の春を感じながら、郷土料理のおもてなしを楽しんでほしいと企画され、同協会が主催するツアーは本年度2回目。今回は、町内や人吉市、山江村などから20~70代の男女が参加しました。

参加者は湯〜とびあで受け付けを済ませ、午前9時30分に出発。下町橋〜林酒造〜里宮神社〜豊永酒造を巡り、北御門浩さん宅で、薬膳料理を研究する山野草会(5人)が腕を振った料理を堪能。「お金を払ってでも、また食べに来たい」と山菜のおにぎりや漬物、煮汁物などをおいしそうにおぼっていました。

道中は観光案内人などスタッフ10人が参加者の間に入り、各名所を説明。会話に花を咲かせ、旅を充実させました。

同協会事務局で地域おこし協力隊として活動する椎葉賢也さん(25=野中田3)は「2回目の開催となり、案内人と参加者の会話もより弾んでいた。当日は寒かったが、郷土料理のおもてなしで心も体も温まっていただけなのでは」と話していました。3月24日には、ひな祭りをテーマにした第3回のツアーを開催する予定です。

湯前小6年生が記念植林 親子でつくる卒業の思い出

卒業を記念した湯前小学校(菅原浩子校長)6年生の植林が2月12日にゆのまえ温泉「湯楽里」吊り橋のコテージ側の斜面で行われ、6年生29人とその保護者が参加し、親子の思い出を刻んでいました。

植林はふるさとへ愛着を持ってほしいと毎年会場を移して開催されています。2月23日に行われた還暦者の記念植林と合わせて95本のイロハモミジが植えられました。

町職員から植え方の説明を聞き終えると、親子で元気に山の斜面を下り、一人がクワで地面を掘れば、もう一人は苗木を植えるなど、協力して作業を進めました。作業中は親子でよく会話し、たくさんの笑顔があふれていました。



会話しながら笑顔で植林を楽しむ親子

介護予防サポーター養成講座 地域での見守りに意見交わす

認知症サポーター養成講座が2月8日に保健センターで開かれ、民生児童委員、町職員ら33人が認知症の知識を学びました。

講座は認知症を正しく理解し、当事者や家族を支える人材を育てることで、だれもが安心して暮らせる地域にしようという町が主催。社会福祉協議会の黒木真也さん(43=上里3)が認知症の特徴を説明し、その後参加者は7班に分かれて、当事者の気持ちや自分にできることについて話し合いました。

「優しく聞いて接したい」「地区で見守りの体制を」などと積極的に意見を交わしていました。受講者はサポーターとなり、その証にオレンジリングが配られました。



地域の中で、できることを考えた参加者